

学校名 (児童数)	大津市立志賀小学校 (790人)
--------------	---------------------

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：大津市南志賀 1-5-1

電話番号：077-522-3729

【研究の目的， 研究内容】

(1) 研究主題

意欲をもって学び続ける子どもの育成
～ふり返りから授業を構想する～

研究仮説

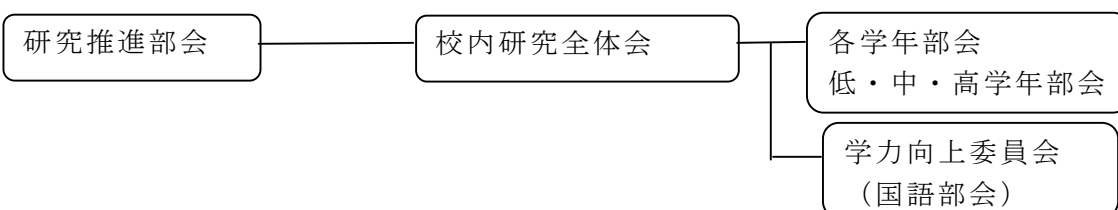
子どもの振り返りを視点とした授業作りをすれば、意欲をもって学び続ける子どもを育てることができる

(2) 研究主題設定の理由

本校では、平成25年度より県の学力向上アプローチ事業を受け、「活用」をキーワードに授業改善を進めてきた。国語科を中心として25年度は説明文、26年度は書く単元を取り上げた。昨年度の成果として、書く活動を積極的に取り入れた授業の工夫ができた・3つの視点（オリジナルタイトル・目指す子どもの姿・夢中になって学ぶ思考中心のヤマ場）が有効であった等があげられた。課題としては、子どもの伸びをどう評価するか、3つの視点をさらにしぼる必要があるといった点が指摘された。そこで今年度は、「単元における目指す子ども像」をより明確にし、そのねらいにダイレクトに迫るヤマ場の学習活動をより豊かなものにするため、振り返りに焦点をあてた授業づくりを進めていきたいと考えた。

まず、単元を構想する際に、期待する子どもの振り返りを考えることで、目指す子ども像を生き生きと描き、より教科の本質的価値に迫る。1時間の授業の終わりに、次につながる意味ある振り返りをするためには、教師の発問や指示をより研ぎ澄まされたものにする必要がある。また、主たる学習活動での課題追求や交流のあり方も吟味しなければならない。さらに、振り返りをすることは、学習活動で思考したり交流したりしたことをもとに、子どもたちが学んだことの価値に気付いたり、新たな課題を持ったりすることにつながる。「チャイムが鳴って終わり」の学習ではなく、家庭での学習や他の教科の学習にもつながるような振り返りを目指したい。そのような授業を積み重ねることが、意欲をもって学び続け、生きて働く学力を身につけた子どもの育成につながるのではないかと考えた。

(3) 研究体制





(4) 1年間の主な取組の経過

- 5月1日（金） 全国学力・学習状況調査の自校採点

- ・ 5月27日(水) 第1回全体会(今年度の研究の進め方・志賀っ子タイム演習)
- ・ 6月24日(水) 第2回全体会(授業改善) & 模擬授業 5年生国語科「生き物は円柱形」
- ・ 7月22日(水) 第3回全体会(ワークショップ書くこと・2学期以降の取組)
- ・ 10月29日(木) 第1回授業研究会 4年生国語科「とっておきの葛川リーフレットを作ろう」
- ・ 11月5日(木) 授業研究中学年部会 3年生社会科「スーパーマーケットの人気のひみつをさぐる」
- ・ 11月9日(月) 授業研究低学年部会 1年生算数科「ひきざん」
- ・ 11月12日(木) 第2回授業研究会 2年生国語科「さくしゃは0000だ! 自分だけのお話をつくろう」
- ・ 12月2日(水) 授業研究高学年部会 6年生国語科「世界の名画ふしぎ発見!」
- ・ 1月22日(金) 第3回授業研究会 5年生国語科「あなたの知らないミミズのはなし」
- ・ 2月10日(水) 第4回授業研究会 ひまわり
- ・ 2月24日(水) 第4回全体会 1年間の成果と課題

(5) 具体的な研究内容・方法・研究を進める上での工夫点等

研究内容	方法や研究を進める上での工夫点等	具体的な実践・授業の様子など	成果○と課題■																
1時間の授業展開を改善する。	導入は5分で 5分以内をめあての提示と学習の指示をする	・教師が話しすぎない、指示はシャープに ・つまづきを予測しすぎて、説明が長くなりすぎていないかを自己評価する ・既習事項や他教科とのつながりを生かした導入、家庭学習からつながる授業の工夫	○1時間でつきたい力、目指す子どもの姿を描いて授業に臨めるようになった。むだな指示や一問一答式の授業から脱却できるようになってきた。 ■5分導入や振り返り時間の確保はあくまで手段。授業が終わっても“もっとやりたい”“家でやってくる”と言える学習にするための授業改善をさらに進めていく必要がある。 ■「交流をしなければならない」のではなく、必要かどうかを考えて学習活動に組み込むことが大切。ともすれば単に書いたことを紹介しているだけの時間になりかねない。 ○振り返り時間の確保を意識することで導入や課題設定をよりシャープなものにすることができた。																
『学び続ける志賀の子』育成にむけての授業作りの観点にそって、教師の自己評価を行い、授業改善に努める 主な項目：学習活動の質と量、交流のあり方、教師の指導		3年生社会科「スーパーマーケットの人気のひみつをさぐる」より ↓																	
学習展開で																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>観点</th> <th>評点</th> <th>コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学習活動の量</td> <td>教科本来の学習活動の時間が十分保障されているか</td> <td>4</td> <td>小グループで声を掛け合い、しっかり交流できた。</td> </tr> <tr> <td>学習活動の質</td> <td>一人ひとりの子どもが生き生きと活動に取り組み、かつ追求する価値のある課題や場の設定になっているか</td> <td>3</td> <td>ほとんどの子どもが発言できた。価値のある課題設定であった。</td> </tr> <tr> <td>学び合い</td> <td>友だちとの交流を通して、意欲的に取り組めたり、学習がひろがったり深まったりしたか</td> <td>4</td> <td>友達と交流して類似点や相違点を見だし、学習を深めることができた。</td> </tr> </tbody> </table>				項目	観点	評点	コメント	学習活動の量	教科本来の学習活動の時間が十分保障されているか	4	小グループで声を掛け合い、しっかり交流できた。	学習活動の質	一人ひとりの子どもが生き生きと活動に取り組み、かつ追求する価値のある課題や場の設定になっているか	3	ほとんどの子どもが発言できた。価値のある課題設定であった。	学び合い	友だちとの交流を通して、意欲的に取り組めたり、学習がひろがったり深まったりしたか	4	友達と交流して類似点や相違点を見だし、学習を深めることができた。
項目	観点	評点	コメント																
学習活動の量	教科本来の学習活動の時間が十分保障されているか	4	小グループで声を掛け合い、しっかり交流できた。																
学習活動の質	一人ひとりの子どもが生き生きと活動に取り組み、かつ追求する価値のある課題や場の設定になっているか	3	ほとんどの子どもが発言できた。価値のある課題設定であった。																
学び合い	友だちとの交流を通して、意欲的に取り組めたり、学習がひろがったり深まったりしたか	4	友達と交流して類似点や相違点を見だし、学習を深めることができた。																
	終末…振り返りの充実	・今日学んだことを○字以内で書く。 ・子どもの振り返りから次時をスタートする。 1年生「くりあがりのあるけいさんをしよう」 今日めあてについて◎○△でふり返ろう。 わかったことや友だちの計算の仕方など、ほどこ思ったことを書こう。																	

	学年の系統性を意識した単元作り	単元のおもしろさ（単元を貫く言語活動）	“次につながる”ポイント	
単元構成を考え授業を改善する <u>国語科</u>	2年「さくしゃは〇〇〇〇だ！自分だけのお話をつくらう」 	自分だけの主人公を考えるのはおもしろい！ →空想が広がり書く意欲へ （1年生に読み聞かせる絵本を作ろう）	・順序に沿って考え、「初め」「中」「終わり」を意識することができる。 ・お話を読んだり書いたりすることが好きになる。	○“もっと読みたい、書くことは楽しい”と子どもの意欲が高まる指導の工夫ができた。 ○「読む」ことを「書く」ことの学習につなげる単元の開発ができた。 ○教師がモデル文を作って子どもに見せることで、書く活動に意欲が高まり、見通しをもって活動することにつながった。
	4年「とっておきの葛川リーフレット」を作ろう	とっておきの体験や自分にしか伝えられないことを書くのはおもしろい！ （“伝えるための秘密”リーフレット作りをしよう）	・説明の工夫（2つの視点）に気づく→段落相互の関係や筆者の思いがわかる。 ・読む単元で学んだことを次の「書く」に生かすことができる。	■ここは…という活動を“教師もやってみる”ことを志賀小の教材研究のスタンダードとして定着させたい。
	5年「あなたの知らないミミズのはなし」	伏せられたまとめの文は何か、自分で予想して書くのはおもしろい！ →筆者の考えの中心を読みとることにつながる （自分版あなたの知らないミミズのはなしをつくらう）	・内容が理解でき筆者の考えがわかると読むことが楽しくなる ・もっといろいろな本を読んでみたくなる。	■学習をどう評価するか。作成した評価問題を今回4年生で実施したが、問題の精度をもっと高める必要がある。また、現在使用しているテストとつなぐたい力とのつながりを考え、吟味する必要がある。
	6年「世界の名画ふしぎ発見！」 	同じ絵でも人によって見方が違う、それを伝え合うことはおもしろい！ （おすすめの絵画を選び紹介文を書こう）	・人によって異なる感じ方や考えがあり、それを交流することによって自分の世界が広がる。	■国語科以外の教科でも、学年の系統性を考え、楽しく授業改善する校内研究にしていきたい。

志賀小の 基礎 ・基本	志賀っ子タイムで毎日10分間言葉の学習 ↓ 志賀っ子タイムは志賀小の宝	人とのコミュニケーションの楽しさ・大切さを実感できる時間に 音読・暗唱・ペア対話・劇など ひろげようの木曜日（代表の児童が生放送で全校に発表） 一人で課題追求できる子どもに 視写・型を使って書く・○字以内で書くなど	○全校で取り組むことで支持的な学級・学校の風土作りができる。 ○聞くこと話すことの基本を育てる。 ■決まった場面だけでなく、授業での意見交流が活発にできる子ども、普段の生活でよりよいコミュニケーションができる子どもを育てていきたい。
-------------------	---	---	--



【研究成果と課題】

（１）研究成果

今年度は、まず全員が普段の自分の1時間の授業を見直し、「5分で導入をする」ことに取り組んだ。さらに「価値ある課題や交流」「次につながる振り返り」を意識し、授業改善に努めた。

夏休みの研究会では、今年度の学力・学習状況調査を分析した結果、

- ・ 3教科A問題・B問題とも正答率は県平均より高い。
- ・ 国・算・理とも「好き」「大切だと思う」「役に立つ」と答えた割合が低い。TVを見たり携帯電話を使ったりする時間が長い。家での学習時間が短い。（全国平均との比較）等、意欲面の低さが指摘され、「意欲を持って学び続ける子どもの育成」の必要性が改めて浮かび上がってきた。

2学期以降は国語科の「書く」ことを中心に、単元全体をどう構成していくかを学年で練り合い、授業を公開した。「もっとやりたい」と子どもの意欲が持続する単元構成の工夫が各学年で見られた。そこから“自分の好きやこだわりから出発し、次につながる学習へ”という共通項も見えてきた。

（２）課題等

- ・ 1時間の授業で「価値ある課題や交流」「次につながる振り返り」をどうしていくかを視点として、個々の教師の力量をさらに高めていく校内研究組織をつくっていきたい。
- ・ 評価をどうするか。従来の市販テストでよいのか、子どもの意欲を高める評価のあり方はどうあるべきかを考えていく必要がある。